

# 南あわじ市人口ビジョン（案）の説明

# 南あわじ市人口ビジョン（案）

## ➤ 目 的

南あわじ市の将来人口をどのように見込むのかを決定します。

⇒ 将来人口の見込み方に沿って市が政策立案を行います。

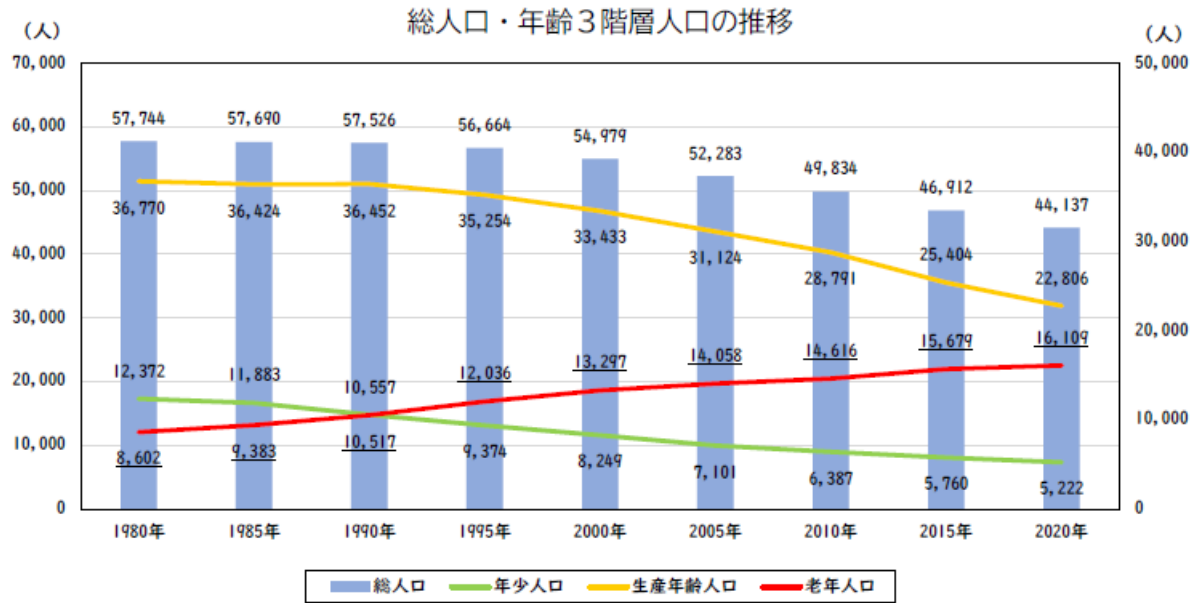
## ➤ 前 半

人口動向の分析・現状と課題

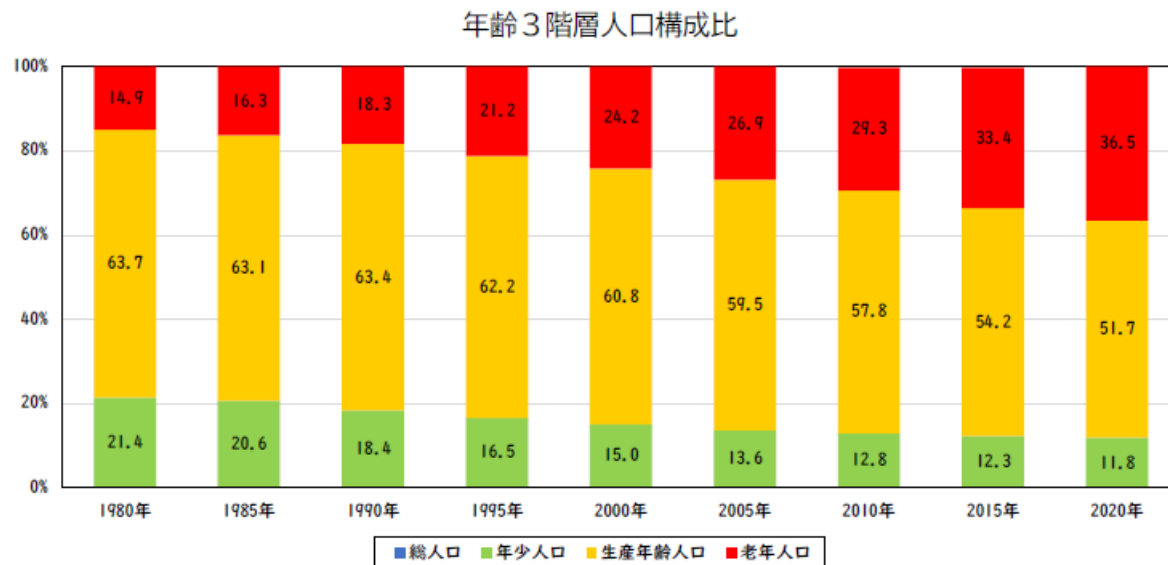
## ➤ 後 半

将来人口のシミュレーション条件  
シミュレーション結果

# (1) 人口の状況 P.1



- 生産年齢人口比率の低下
- 老年人口比率の上昇（高齢化）
- 年少人口比率の低下（少子化）

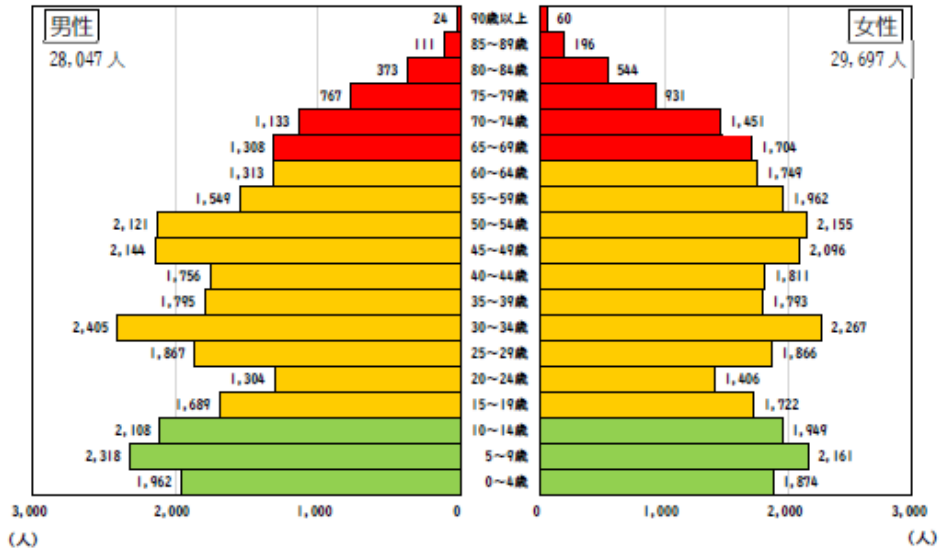


# (1) 人口の状況 P.2

人口ピラミッドによる年齢階層別人口の推移

1980 (昭和55) 年

総人口: 57,744 人

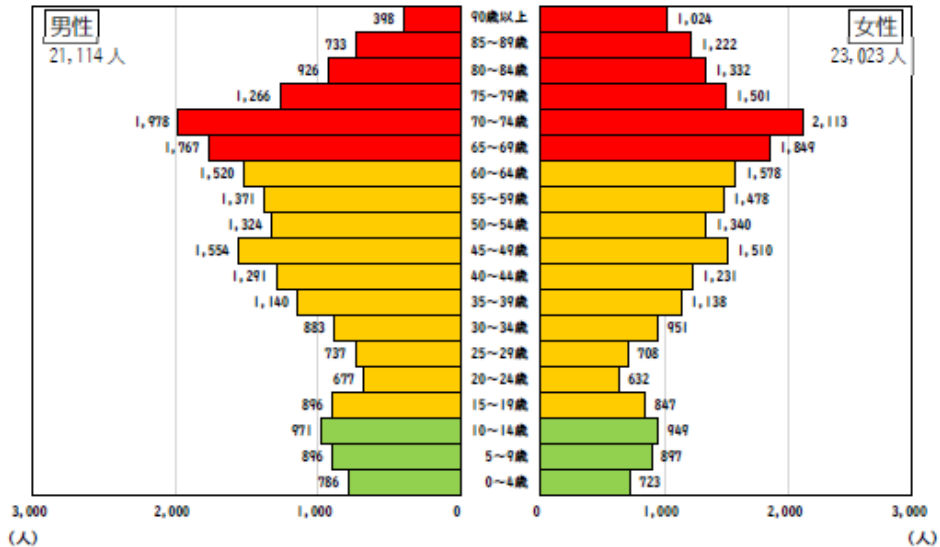


➤ 老年人口比率の上昇 (高齢化)

➤ 生産年齢人口比率の低下

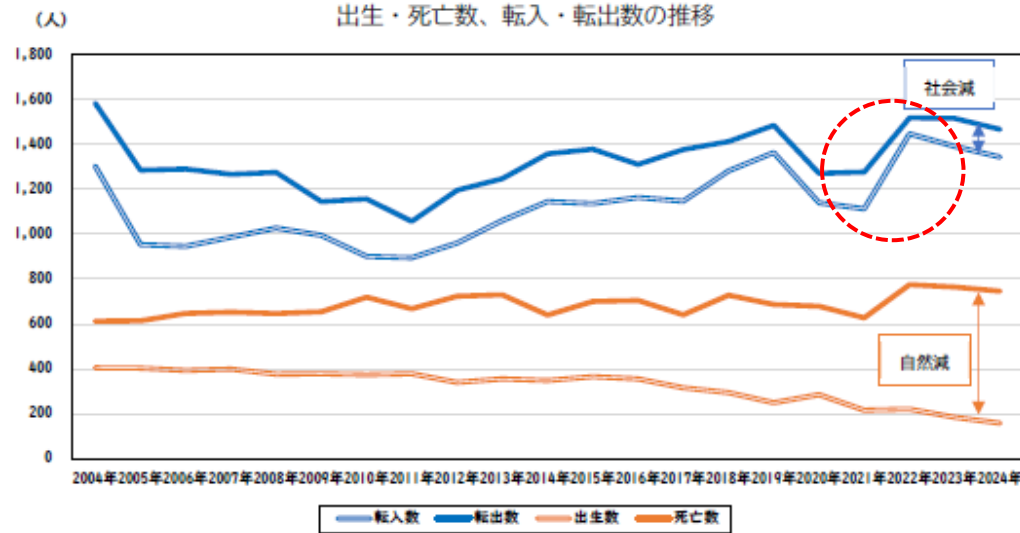
2020 (令和2) 年

総人口: 44,137 人



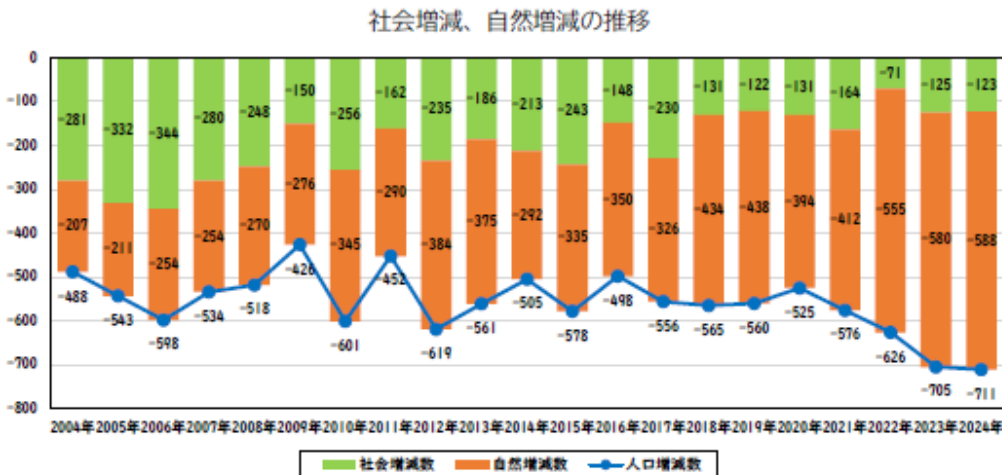
➤ 年少人口比率の低下 (少子化)

# (2) 出生・死亡数、転入・転出数の状況 P.3



※社会増減：転出>転入=社会減、転出<転入=社会増  
 ※自然増減：死亡>出生=自然減、死亡<出生=自然増  
 出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

○2008（平成20）年以降は社会増減による人口の減少よりも、自然増減による人口減少の方が大きくなっており、少子化や人口構造の高齢化に伴う死亡数の増加による影響が現れてきています。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

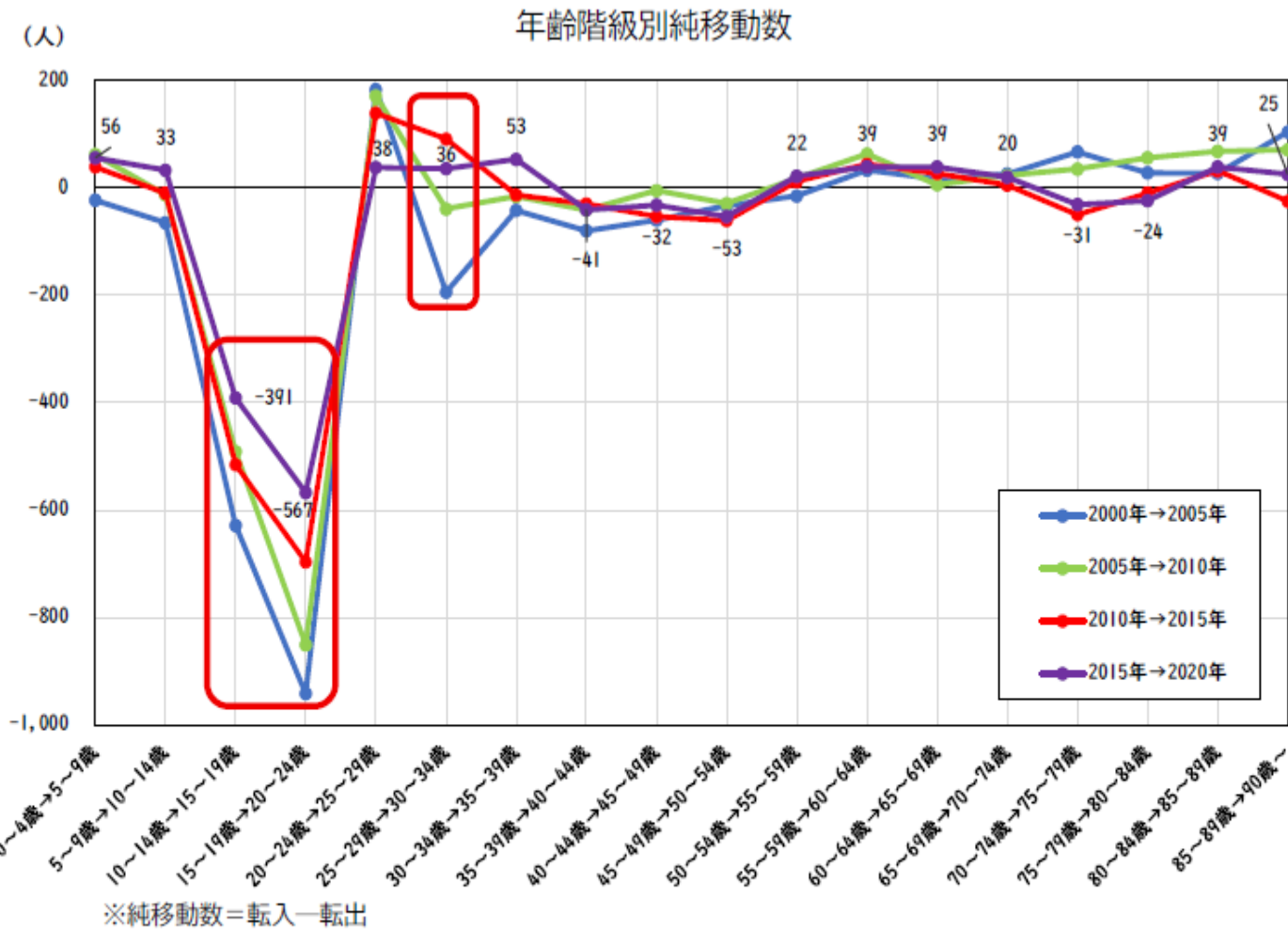
➤ 死亡数が出生数を上回る「自然減」  
 転出数が転入数を上回る「社会減」  
 が長期間にわたり進行。

➤ 2020（令和2）年、2021年（令和3）は新型コロナウイルス感染症の影響で転入転出数ともに減。

➤ 社会減：直近5年平均 約-120人

➤ 自然減：直近5年平均 約-500人

# (3) 人口移動の状況 P.4



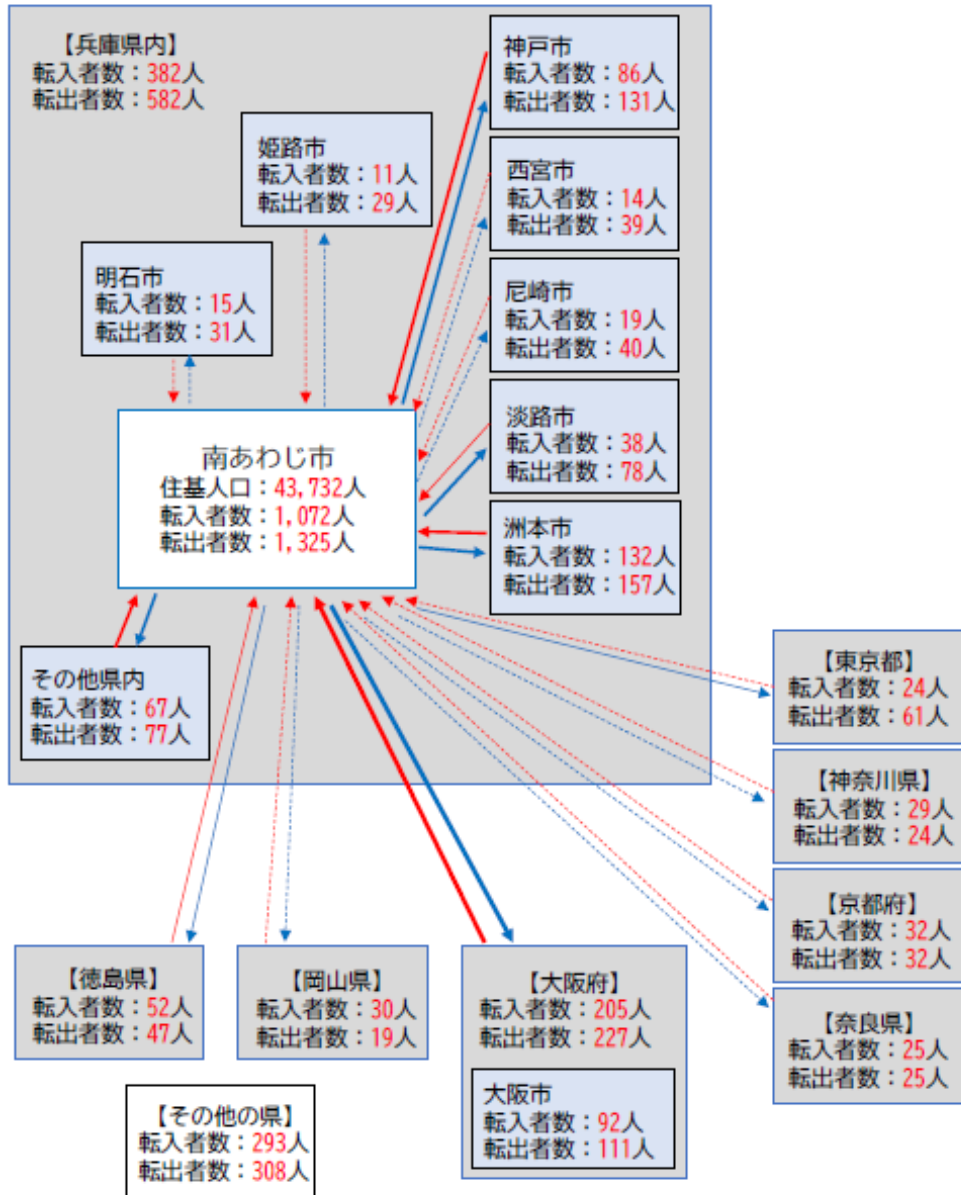
- 10~14歳→15~19歳、15~19歳→20~24歳での転出超過。進学・就職が影響。
- 25~29歳→30~34歳では転出超過から転入超過へ。
- Uターン志向が顕在化し始めているとも読み取れる。

出典：内閣府「RESAS」

※調査時点の年代の人口から5年後の年代の人口を引いた数を表示しています。  
 計算例としては (2000年時点の10~14歳人口) - (2005年時点の15~19歳人口)  
 =10~14歳→15~19歳 (2000年→2005年)

# (3) 人口移動の状況 P.5

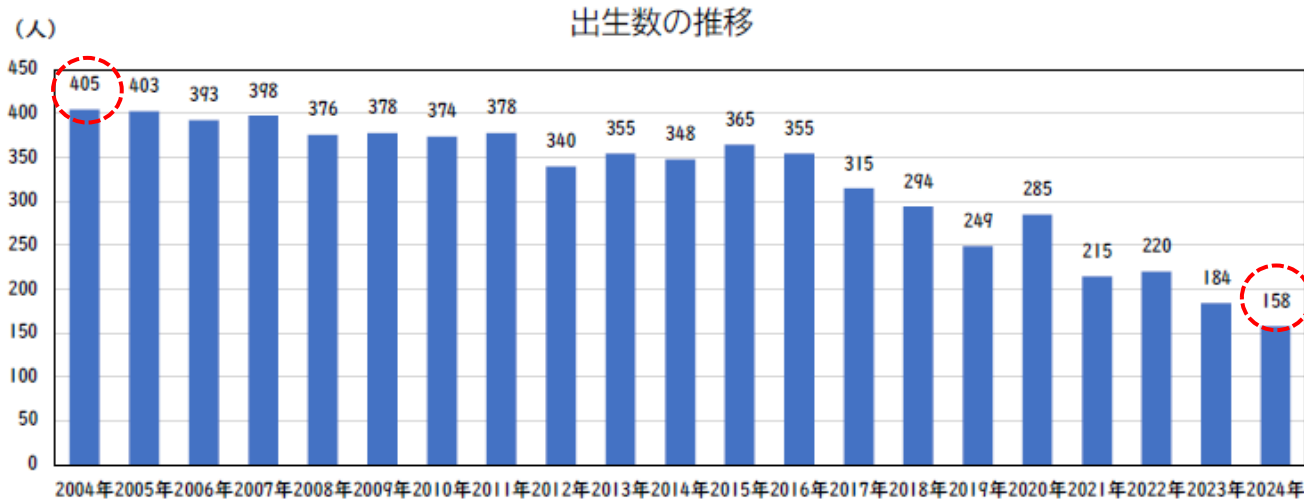
2024（令和6）年 南あわじ市に関する人口移動状況



➤ 転入・転出の移動全体のうち、  
兵庫県内の移動が約4割。  
洲本市、神戸市、淡路市。

➤ 神奈川県、岡山県、徳島県で転入超過

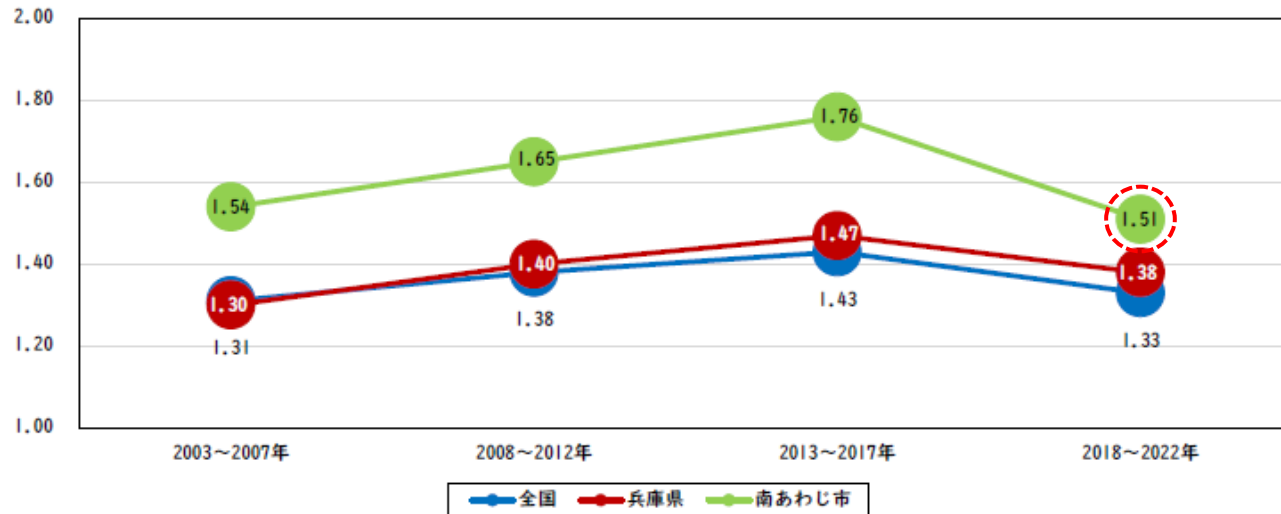
# (4) 合計特殊出生率と出生数の推移 P.6



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

➤ 2024年出生数 158人  
減少傾向

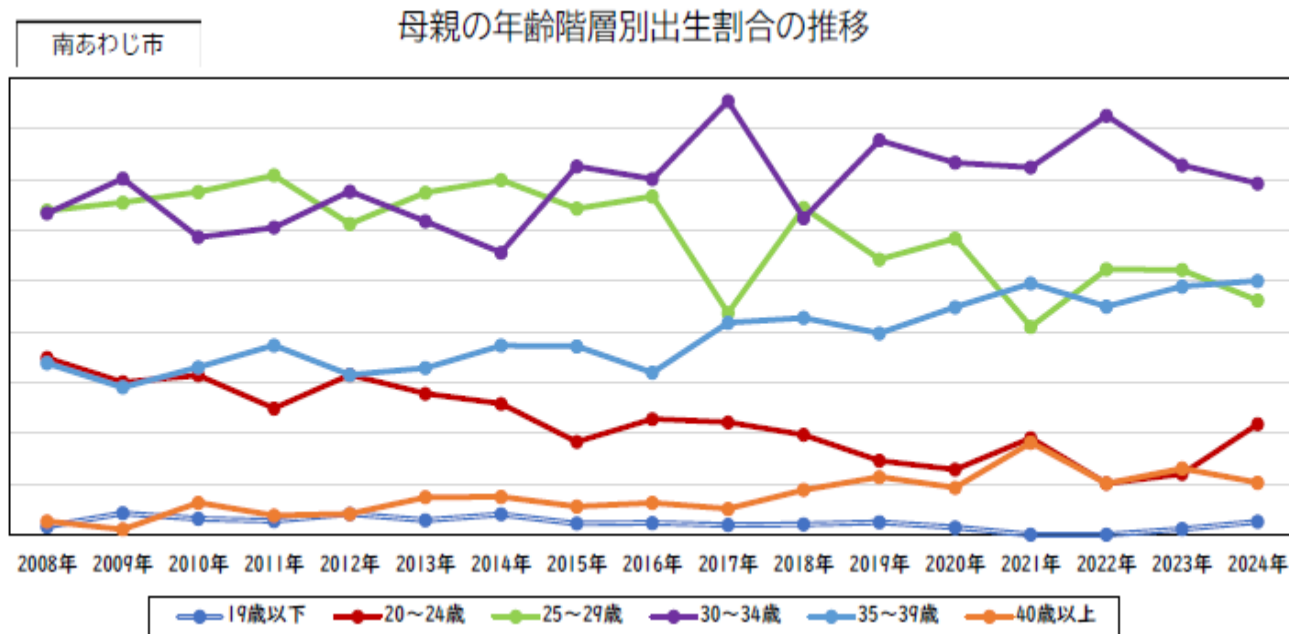
合計特殊出生率の推移



➤ 合計特殊出生率は1.51  
兵庫県・全国を上回る水準

出典：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」

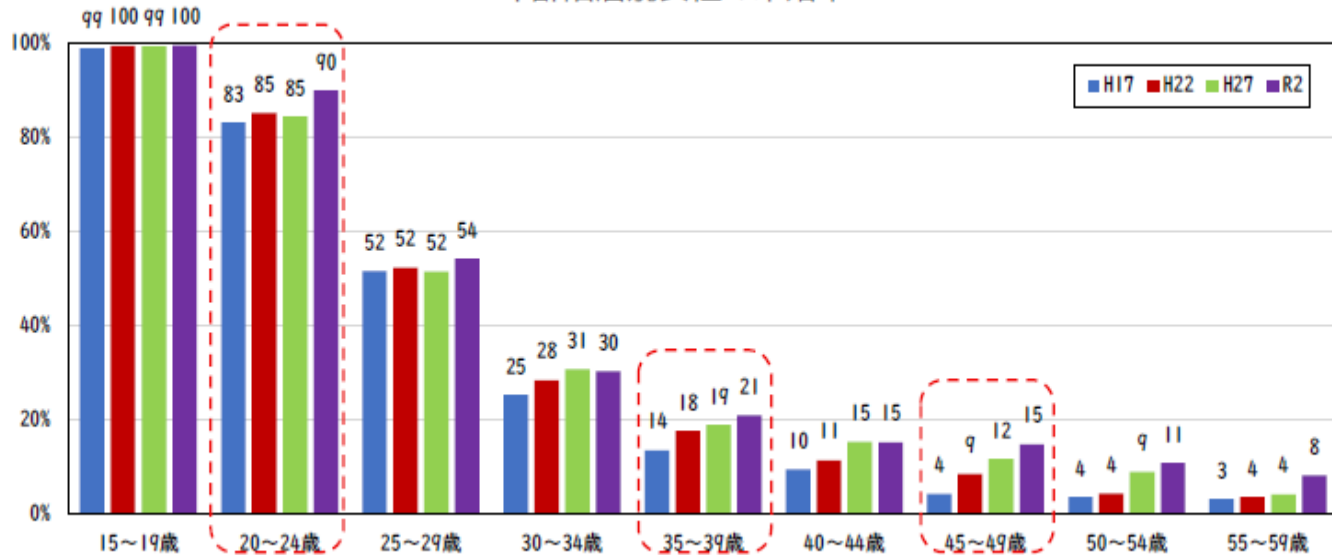
## 年齢階層別の出生数の割合



- 30～34 歳、35～39 歳は上昇
- 25～29 歳は低下
- 母親の年齢階層が上昇傾向

# (5) 婚姻の状況 P.8

年齢階層別女性の未婚率



出典：総務省「国勢調査」(2020(令和2)年)

- 全体的に未婚率は上昇傾向
- 特に20代前半、30代後半、40代後半の未婚率が上昇。

# (5) 婚姻の状況 P.9

生涯未婚率の推移

	H17		H22		H27		R2	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
南あわじ市	15.9%	4.0%	18.0%	6.5%	20.6%	10.4%	25.5%	13.1%
兵庫県	13.7%	7.2%	17.5%	10.7%	20.5%	14.3%	25.4%	17.7%
全国	16.0%	7.3%	20.1%	10.6%	23.4%	14.1%	28.3%	17.8%

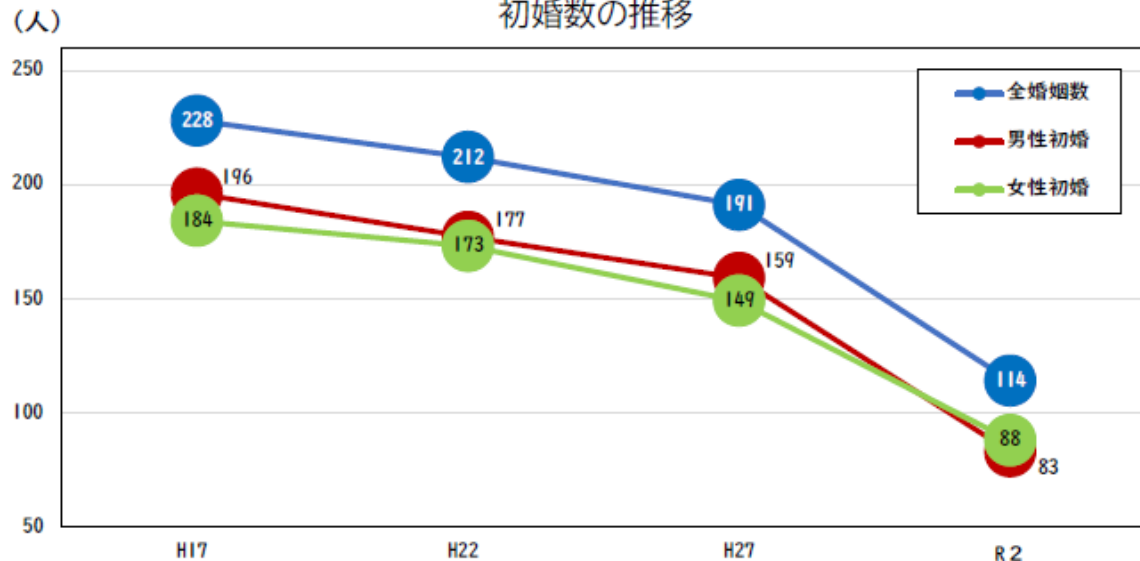
出典：総務省「国勢調査」

平均初婚年齢

	H17		H22		H27		R2	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
南あわじ市	29.3歳	27.1歳	29.4歳	27.3歳	30.4歳	28.7歳	30.9歳	29.1歳
兵庫県	29.7歳	28.0歳	30.3歳	28.7歳	30.8歳	29.3歳	30.8歳	29.5歳
全国	29.8歳	28.0歳	30.5歳	28.8歳	31.1歳	29.4歳	31.0歳	29.4歳

出典：厚生労働省「人口動態調査」(全国)、兵庫県保健統計年報(兵庫県、南あわじ市)

初婚数の推移



出典：兵庫県保健統計年報

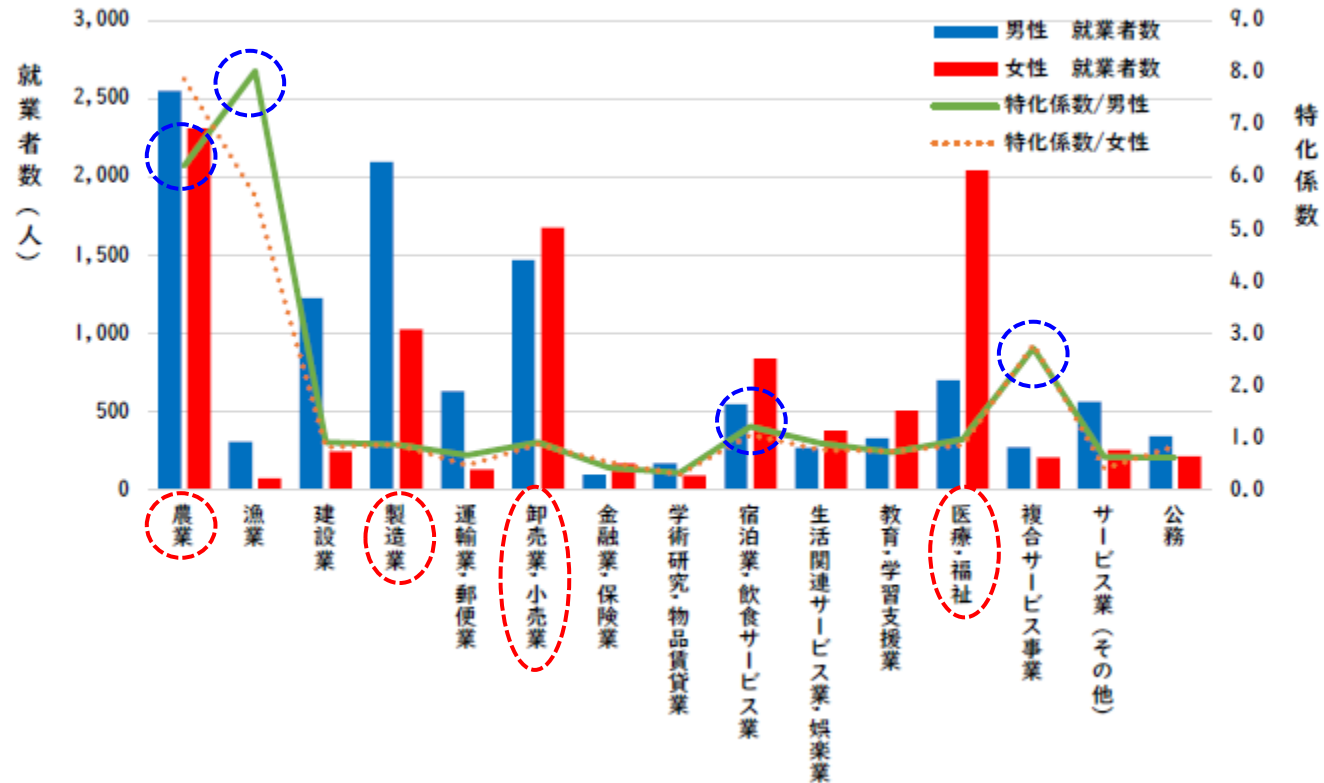
➤ 生涯未婚率 男女とも上昇傾向  
(県より高く、国より低い)

➤ 平均初婚年齢 男女とも上昇傾向  
(晩婚化)

➤ 初婚数も減少傾向  
(若年層の減、生涯未婚)

# (6) 就業の状況 P.10

男女別・産業別就業者数（従業地）



➤ 就業者の多い産業は「農業」、「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」

➤ 男女ともに「農業」が最も多い。

➤ 特化係数  
1.0超は全国より特化している産業  
→ 農業、漁業、宿泊業等

※男女合計の就業者数が100人未満の産業及び「分類不能の産業」を除いて表示しています。

出典：総務省「国勢調査」（2020（令和2）年）

## ① 自然増減

- 死亡数が出生数を上回る「自然減」の状態が進行。
- 少子化高齢化の人口構造を踏まえると、今後も「自然減」は拡大。
- 出生率は国県と比較して高いが、子育て環境の向上と併せて、晩婚化や非婚化の傾向を抑制していく視点も重要。

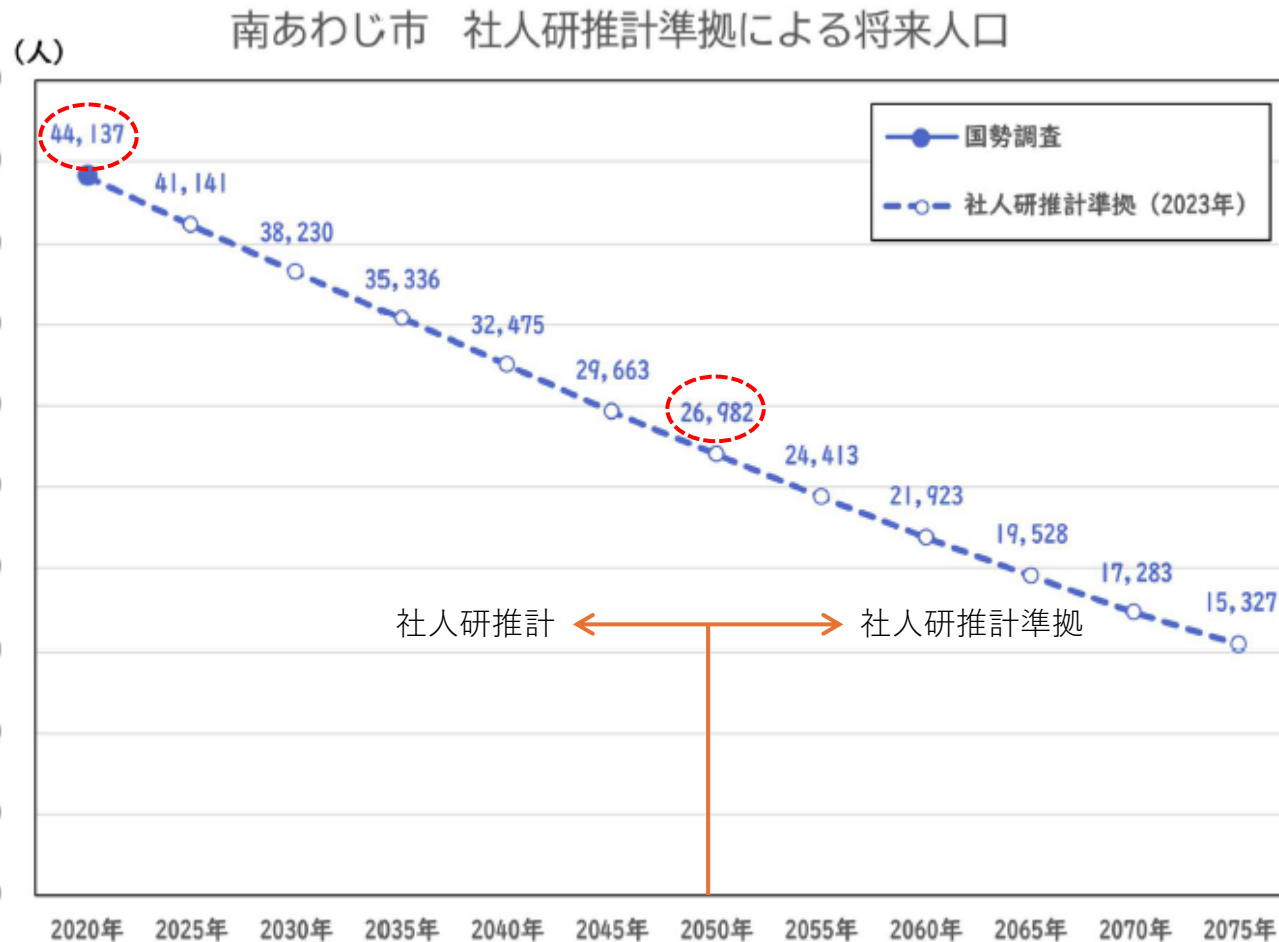
## ② 社会増減

- 転出数が転入数を上回る「社会減」の状態が進行。
- 15歳～24歳(若年層)の進学・就職による転出が顕著。
- 出生数に影響する若い年齢層のU I Jターンを促す取組が重要。

## ③ 就業者数

- 「農業」、「製造業」、「卸売業,小売業」、「医療,福祉」が多い。
- 本市の経済活動やにぎわいの創出といった視点からも、生産年齢人口比率の確保が必要。

# (1) 国立社会保障・人口問題研究所による推計（社人研推計準拠） P.12



➤ R2 2020年 国勢調査

➤ R5 2023年 社人研推計  
2050年までを推計

➤ 2055年以降を推計し延長  
→ 社人研推計準拠

➤ 減少の一途

2020 (R2) 年 44,137 人

2050 (R32) 年 26,982 人

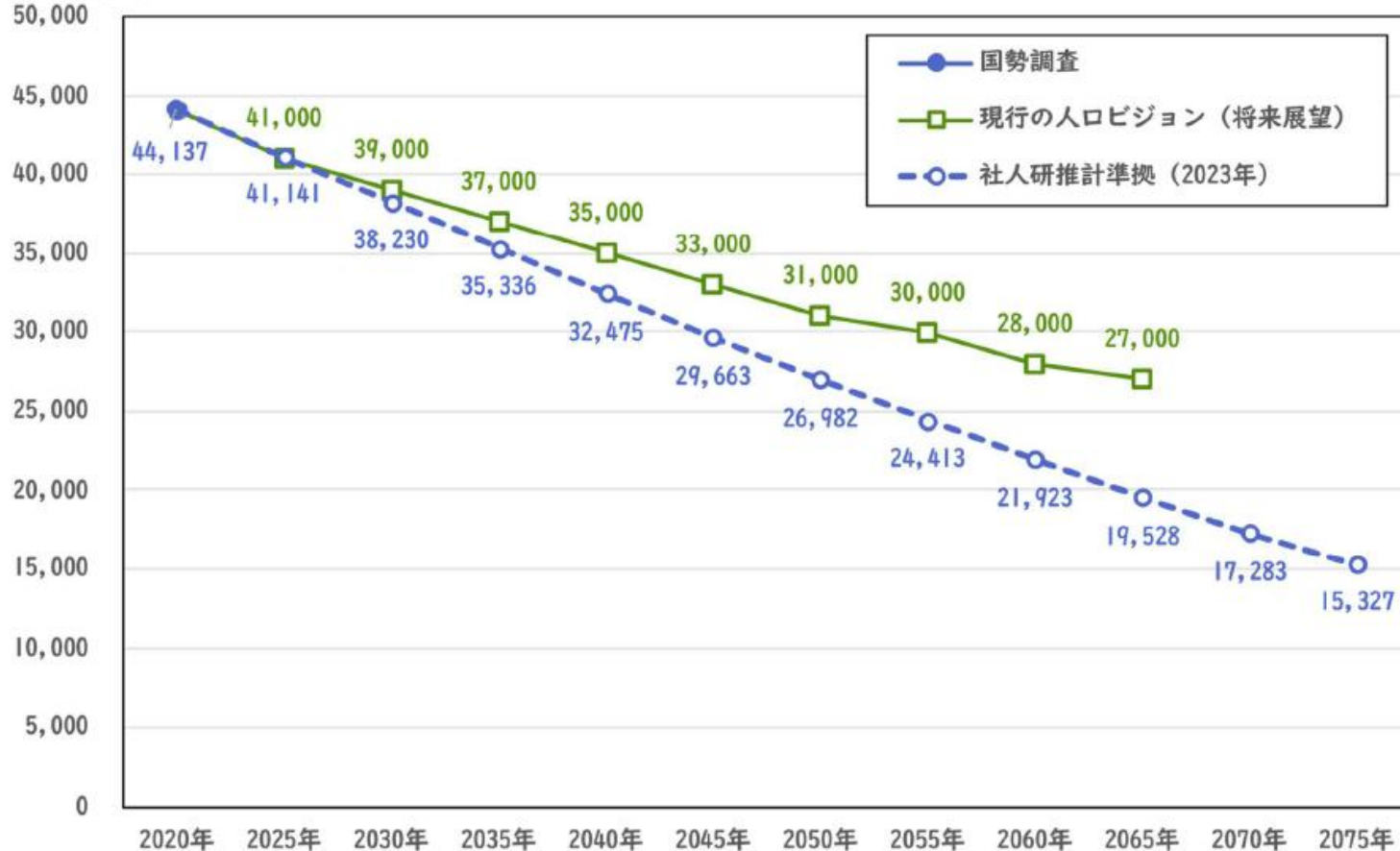
→ 30年間で -17,155人

# (2) 現行「人口ビジョン」における将来展望 P.13

## 現行「人口ビジョン」における将来展望の設定条件

- ◆2035年までに合計特殊出生率を2.15まで上昇
- ◆2025年までに純移動率を半減させ、2040年までに純移動の均衡（純移動率「ゼロ」）
- ◆子育てを希望する20歳から39歳の女性人口の増加

(人) 南あわじ市 現行「人口ビジョン」における将来展望



➤ R5 2023年  
社人研推計準拠

➤ R6 2024年  
人口ビジョンを改定

→ 目標人口を設定

## 現行「人口ビジョン」における目標人口

- ◆短期目標 (2025年) 41,400人
- ◆中期目標 (2045年) 33,200人
- ◆長期目標 (2065年) 27,500人